会 議 録

第9回定例会

開会 令和6年8月27日

教育委員会会議録

1 開 会 令和6年8月27日 午前10時

2 閉 会 令和6年8月27日 午前11時15分

3 教育委員会出席者

教育長	中川 齊史
委員	島 隆寛
委員	三木 千佳子
委員	河野 暁
委員	岡本 弘子
委員	横田 賢二

4 教育長及び委員以外の出席者

副 教 育 長	松本 光裕
教 育 次 長	海老名 正規
教 育 次 長	眞相 秀也
教育政策課コンプライアンス推進室長	織野 明弘
教育DX推進課長	戎 弘人
教 職 員 課 長	西浦 利幸
義務教育課長	長谷 彰彦
高校教育課長	酒井 吉彦
特別支援教育課長	中山 登
教育政策課長	内海 はやと
教育政策課副課長	櫻木 大介

[開 会]

教育長 定例会を開会する旨を告げる。

[議 事]

教育長 議案第24号、議案第25及び報告事項2を非公開として差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

教育長 そのように取り計らうこととし、議事に入ることを告げる。

《議案第23号 令和6年度（令和5年度対象）徳島県教育委員会の点検・評価について》

教育長 説明を求める。

コンプライアンス推進室長 内容等を説明する。

〈質 疑〉

島委員：国際体験活動「AWA English Study ～万博バージョン～」は、人気が高く多くの希望者がいたということだが、事前に定員をオーバーすると想定されるものについては、オンラインも併用し実施することはできないか。

コンプライアンス推進室長：反省点として、次回には多くの子供たちが参加できるよう担当課に伝える。

横田委員：県立学校トイレの洋式化率について、達成率が令和5年度は67%、最終年度である令和8年度は100%となっているが、十分達成できるのか。

コンプライアンス推進室長：そのような方向で進めている。

教育長 議案第23号を原案どおり決定してよいかを諮る。

各委員 異議なし。

教育長 議案第23号を原案どおり決定する旨を告げる。

《報告事項1 1人1台端末環境の復元について》

教育長 報告を求める。

教育DX推進課長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

島委員：端末の更新は定期的に一括して行うのが前提と思うが、今回、県教委の調達と四電工の提供がそれぞれ複数回あり、端末の使用開始時期がまちまちとなっている。次の更新時期は五月雨式となるのか。

教育D X推進課長：五月雨式とするか、リースの時期を調整し、ある程度まとめて更新するか、端末の状況等を見ながら、今後検討していく。

横田委員：長年の懸案事項が解決して良かった。

河野委員：昨年の夏休み明けはバッテリー膨張による故障台数がかなり増えたと思う。新学期が始まるにつれ、新たに故障台数が増えることが想定されるが、調査は行うのか。

教育D X推進課長：学校から報告をもらう。現在は夏休みで、大半の生徒が端末の持ち帰りをしていることもあり、今のところ、特に大きな故障台数増加の報告は受けていない。学校からの報告状況を見ながら、予備機等で対処していく。

河野委員：学校で保管されているところもあると聞くがどうか。

教育D X推進課長：配備が夏休みとなり、登校日の関係で持ち帰りできてない学校もある。

河野委員：新学期以降の対応もお願いしたい。とりあえず、全部、配備できて良かった。

岡本委員：苦勞されたと思うが、1人1台端末の環境が復元できて良かった。また、端末の活用について、先ほどの評価指標にあった、端末が授業に役に立っているかというような単純なものではなく、特色化・魅力化を図る上で端末をどう活用していくのかというような観点で、県教委としてバックアップしていった欲しい。

《報告事項3 徳島県幼児教育振興アクションプランⅣ（仮称）について》

教育長 報告を求める。

義務教育課長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

三木委員：「幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続の推進」について、それぞれの幼児教育施設や地域によって、教育の進め方や方針が違うのでは、小学校に上がってきたときに、子供によっては大きな戸惑いや不安があるので

はないか。円滑な接続というところで、今はどのような取組をしているのか。

義務教育課長：本課では、幼稚園等と小学校が円滑に接続し、体系的な教育が組織的に行われるよう、モデル地域を指定し「学びのかけ橋」プロジェクトに取り組んでいる。モデル地域での取組を普及させていきたい。また小学校でもスタートカリキュラムを作成するなどし、総合的に学ぶ幼児教育の成果を小学校教育に生かすことが、学校生活への適応を進めることになるものと期待される。地域の保育所、幼稚園等と年間を通して連携し、スムーズな小学校生活のスタートができるよう取り組んでいきたい。

岡本委員：以前、勤務していた小学校では、職員が夏休みに保育所や幼稚園の登園日に見学に行っていた。幼児の様子を見て、保育所や幼稚園で「これだけのことができるんだ」と勉強になった。また、保育所や幼稚園から小学校に来ていただき交流をもっていた。そういう交流が非常に大事だと思う。幼児教育は非常に重要なものだと考えているが、幼稚園と保育所（認定こども園）の所管課が違うことで、（教育委員会と児童福祉部局の）方針・姿勢が全く違う。そんな中で、認定こども園がどんどん増えて、保育と教育が合体したときにズレがあり、やりにくさを感じていると思っていた。安心して幼児を育てたいという思いは同じだが、そのような方針の違い、所管課の違いが保護者の不安につながることもあるのではないか。それはどうにもならないのか。

義務教育課長：前回の策定検討会議にも、保育所・認定こども園、私立幼稚園の所管課（知事部局）が関わっている。アクションプランⅣの策定についても同様に関わっていただきたいと考えている。

岡本委員：採用のシステムも違うと思うが、同じ方向を向いて取組を進められるようにしていただきたい。

横田委員：現行アクションプランの評価はどのように行っているのか。委員が評価するのか、各幼稚園等から定期的に自己評価したものがあがってくるのか。

補助者：年に1回、市町村教委を通して、各幼児教育施設にアクションプランⅢの進捗状況調査を行っている。それをもとに、アクションプランⅢの策定検討会議の委員にも入っていただき、進捗状況や推進体制の内容についての連絡・協議を行っている。

横田委員：人口減少が進む中、幼児は徳島県の宝物である。全ての幼児が適切な教育を受けて、小学校に入学できるような環境を整えていただきたい。

[非公開]

《報告事項2 服務上の措置の実施状況について》

《議案第24号 令和7年度使用高等学校用教科用図書の採択について》

《議案第25号 令和7年度使用特別支援学校（小・中学部）用教科用図書の採択について》

[閉 会]

教育長 本日の議事が全て終了したので閉会する旨を告げる。

閉 会 午前11時15分